

# 日本隊、標高8、163mを征す。

## 1956年、彼らはヒマラヤに永遠を刻んだ。



▲7200mの第5キャンプに降りつき感激の握手。今西壽雄(右)ガルツェン(左)の両登頂隊員  
◀第三次マナスル登山隊 マナスルの頂に立ったシェルパのガルツェン隊員 昭和31年5月9日今西壽雄隊員撮影

※1 ヒラリー＝エドモンド・ヒラリー、エベレストを初登頂(1953年)、ニュージーランド出身の登山家。  
※2 アイスフォール＝氷河がなだれかき表面に駆け目などができた場所。常に崩壊の危険がある雪山登山の難所。  
※3 シェルパ＝ネパールの少数民族の一つ、ヒマラヤ登山で隊の一員としてガイドや荷物運搬を精める。



登山隊帰国時の様子

**グ** ゴゴゴォ… 標高7千mの凍った大気が不気味に鳴りつづいた。雪崩だ！第一アタッカー今西壽雄はその場に凍りつく。後続隊がいる第四キャンプの方向だ。登頂まであと1km、ここまで来て仲間を失ったのか…

サンスクリット語で精霊の山を語源とするマナスル。標高世界8位の処女峰。過去二度にわたって日本隊は登頂に挫折。第三次遠征隊は彼らの無念を背負っていた。3月27日、隊長・横有恒率いる本隊がネパール国サマ集落より登攀開始。選抜された11名。今西もそこにいた。戦前からアジアの辺境を探検、3年前のアンナプルナ登攀では壮絶な撤退を行い「ヒラリー」を凌ぐ「判断力」と言われた。だがその彼も41歳。登山家としての絶頂期はとうに過ぎていた。

**危** 険なクレバスを超え、崩落寸前に見えるアイスフォールの側を進む。高山病に苦しみながら隊はジリジリと山頂へ近づいた。標高6千6百m第四キャンプ。第一アタッカー2名が選ばれた。横隊長は今西とシェルパのガルツェンの名を告げた。失敗できない局面、ベテランの経験と判断力に隊長は賭けた。仲間を叩かれ2人はキャンプを後にした。

…山の悲劇は一瞬である。仲間の安否は知れず、不安と焦燥が胸に広がっていく。だが今は前進するしかなかった。その時、今西の無線機が音を発した。第四キャンプは無事だ！今西とガルツェンは胸を撫でおろす。そして2人の心は逸った。頂上アタックは一気だった。5月9日午後0時30分。標高8、163mの紺碧の空に日の丸とネパール国旗がはためく。日本が敗戦の痛手から立ち直っていく、それは象徴的な出来事だった。

**ア** ルピニスト今西壽雄はこの7年後、建設会社今西組の四代目社長に就任、実業界で手腕をふるった。とりわけバブル崩壊後の混乱期において優れた統率力を発揮、安定した業績を継続させ、現在の今西組の地盤を築いた。

彼はマナスル登頂時にネパールの人々から受けた厚情を生涯の宝とした。1970年の大阪万国博ではネパール館建設を担当。同国の経済事情を察して採算度外視で設計・施工に務めるなど同国の親善の礎を築いた。

今西壽雄は逝去2年前の1993年、駐日ネパール王国名誉総領事に就任した。同席は現在の五代目社長に引き継がれている。



いまにし としお  
**今西 壽雄** 1914～1995  
登山家・日本山岳会会長(1985～1989)  
株式会社今西組 代表取締役社長/会長 歴任  
高校時代より登山部で活躍、京都大学入学後はモンゴル探検や大嶽による樺太探検に挑む。陸軍に入隊後、満洲で敗戦。3年間のシベリア抑留から生還。1953年、京大アンナプルナ遠征隊長として登頂に挑むが、頂上寸前でジェットストリームに阻まれ撤退。九死に一生を得る。1956年のマナスル登頂後は、生業である建設会社を引き継ぎ、大胆かつ慎重な経営手続で同社を発展に導く。1985～1989年には日本山岳会会長を務めた。

広告企画・制作/毎日新聞社広告局

# 大地に建築という夢を、刻む。

今西組は2017年、創立120周年を迎えます。



老人ホーム(京都・宇治市)



保育園(大阪・和泉市)



大阪府営高層住宅(大阪・東大阪市)



**株式会社 今西組**

本 社 〒543-0001 大阪府大阪市天王寺区上本町6-9-21 TEL.06-6779-3361(代表)  
東京支社 〒160-0014 東京都新宿区内藤町1番地 TEL.03-3354-0581(代表)  
<http://www.imanishigumi.co.jp/>



「今西組オリジナル動画」を  
YouTubeにて公開中!!